

英語科学習指導案

単元名「Toward Sustainable Development Goals」

令和7年9月 第1学年 指導者 儘田 憲子

I 単元の構想

1 単元観

本単元では、国連での高校生によるスピーチを読むことを通して、生徒自身が高校生として社会とどのように関わり、持続可能な未来に向けてどのように行動できるかを考えることを目的としている。題材となるスピーチは、高校生のラリエン・ベッカーズによるもので、「若者について語る場に、当の若者がいないのはおかしいのではないか」との問題提起から始まる。彼女は、世界が直面する課題は大人だけでなく若者とも共有されるべきものであり、すべての世代が協力し行動することが不可欠であると訴えている。若者をSDGsの構想、実施、監視の中心に置くべきであり、世界のすべての子供と若者がSDGsについて学ぶべきである。さらに、若者が言葉だけでなく行動を伴って取り組むことこそが、持続可能な未来の実現につながることを強調している。このスピーチを読み、発信者としての意識を高めた上で、生徒は「オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力伝えるために動画を作成しよう」というプロジェクトに取り組む。

本単元の主な言語活動は、「オープンスクールに来校する中学生や保護者に向けて、研究協力校の魅力を英語で伝える動画（1人1分程度）を作成する」ことである。この活動では、自分たちが日々の学校生活を通して実感している研究協力校の魅力について、自分の考えを整理し、聞き手の関心を引くように工夫しながら、その理由とともに英語で伝えることを目指す。成果物となる動画は、実際にオープンスクールの場で使用され、「中学生や保護者に研究協力校の魅力伝える」という明確な目的・場面・状況が設定されている。

この活動を通して、生徒は自分の言葉で学校の魅力を主体的に発信し、中学生や保護者にリアルな研究協力校の姿を伝えることができる。また、ペア活動やグループ活動の中で「聞き手に伝わる内容になっているか」「関心を引く工夫がされているか」といった観点から、協働的に発信内容を検討し、改善を重ねていく。こうした試行錯誤を通して、生徒は聞き手を意識した発信の工夫を学び、英語で伝える力を高めていくことが期待できる。

2 研究との関わり

本研究では、「高等学校英語科における非認知能力の育成ーPBL型授業の単元計画作成とAARサイクルの授業展開ー」を研究主題として設定している。英語科の授業を通して、研究協力校が掲げている「五常の教え」を基に非認知能力の育成を目指す。その実現に向けた具体的な手立てとして「PBL型授業の単元展開」と「AARサイクル」の活用を挙げる。

「PBL型授業の単元展開」とは、英語科の授業において、生徒が単元の内容に即した目的・場面・状況が設定されたプロジェクトに主体的に取り組み、必要な情報を自ら収集・分析しながら、ペアやグループで協働的に考察・検討し、プロジェクトの達成に向けた成果物の作成や発表を通して、単元内容に関する理解と学びを深めていく構成を指す。このような単元展開によって、生徒はプロジェクトを自分事として捉え、試行錯誤を重ねながら成果発表に至ることができると考える。その過程で、「五常の教え」で目指す生徒の姿が発揮され、その姿を称賛することを通して価値づけていくことで研究協力校の目指す非認知能力の育成を図ることができると考える。

「AARサイクル」とは、「見通し(Anticipation)・行動(Action)・振り返り(Reflection)」のプロセスを繰り返し行うことで、学びを深めていく学習の流れである。生徒は、PBL型授業におけるプロジェクトに主体的に取り組む中で、このサイクルを意識的に活用し、思考と行動を適宜調整・改善しながら、よりよい成果や発表につなげていくことができる。またこのサイクルにおいても、「五常の教え」で目指す生徒の姿が観察された際に、教師がその姿を称賛することを通して、その行動を「五常の教え」に基づいた非認知能力として価値付けていくことができると考える。

これらの手立てを講じることで、英語科における「伝え合う力」の育成を図るとともに、生徒の非認知能力の向上を目指す。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、「オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう」というプロジェクトについての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 語彙や文法の理解に個人差があり、学習内容の定着に支援を必要とする生徒がいる。 発表のモデルを聞く際、具体的な例がないとイメージをつかみにくい生徒が一定数いる。
思考力、判断力、表現力等		<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの活動においては、自分の伝えたいことを形にしようとする姿勢が見られ、協働的に表現を工夫することができる生徒が多い。
学びに向かう力、人間性等		<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協働して学び合う雰囲気があり、「話すこと」の言語活動にも積極的に取り組むことができる生徒が多い。

4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 「オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう」というプロジェクトについての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、「オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう」というプロジェクトについての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、「オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう」というプロジェクトについての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。

5 指導及び評価の計画（全4時間）

時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
1	<input type="checkbox"/> 単元の主題に関する教師のオーラルイントロダクションを聞き、理解する。 <input type="checkbox"/> 本文内容を理解する。 <input type="checkbox"/> 単元のプロジェクトを理解する。	●		○	●本文内容を理解している。 <ワークシート（知）> ○身近な話題について、聞き手にとって関心のある内容を発信するという課題を捉え、自分の考えをもとうとしている。 <観察（態）>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>[単元のプロジェクト] 「オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう」</p> </div>					
2	<input type="checkbox"/> 本文を読むことで得た知識や情報を基にリテリングを行う。 <input type="checkbox"/> 発表準備を行う。 <input type="checkbox"/> ペアで発表練習を行う。		○		○ペアでの発表練習を通して、聞き手にとって関心がある内容や伝え方を検討している。 <ワークシート（思）>

3	<input type="checkbox"/> ペアで修正と発表練習を行う。 <input type="checkbox"/> 動画撮影を行う。	○	○	○「オープンスクールに来校する中学生と保護者に研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう」というプロジェクトについて、聞き手にとって関心がある内容や伝え方を工夫して話している。 <動画(知・思)>
4	<input type="checkbox"/> 撮影した動画を鑑賞し合う。 <input type="checkbox"/> 振り返る。		●	●動画を互いに鑑賞し合い、よさや次回につなげるアドバイスをしようとしている。 <観察・ワークシート(思・態)>

II 第1時の学習

1 ねらい 読む活動を通して、本文の内容を理解し、単元の学習課題を捉えることができる。

2 展開 (55分)

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ◎指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 本文に関する教師のオーラルイントロダクションを聞き、理解する。(5分) S: 国連の会議で、高校生がスピーチをしているんだな。	○視覚資料を用いながら、国連の会議の場で高校生がスピーチをすることを理解し、どのような内容であるか関心をもてるようにする。
2 最初の1文のみ読む。 この後、どのような展開になっていくかペアで話し合う。(7分) S: この高校生が何かを提案するのかな? S: SDGsのことを話すのかな?	◎1文のみ読むことで、この後の展開をペアで予想し、見通しをもつことができるようにする。 ◎ペアで話し合う際も相手の意見を否定せず、自由に予想できるようにする。(A見通し)
3 本文を読む。 4 TF問題に取り組む。(25分) S: 若者もいろいろなことを心配しているのだな。SDGsは知っている。 S: 世代を超えて、自分たちが考え、行動することが大切だ。	◎どのような展開になっていくかを意識しながら本文を読めるようにする。(A行動) ◎TF問題に取り組むことで、本文の内容が理解できているか確認できるようにする。(R振り返り)
5 単元の学習課題を理解する。(8分)	
[単元のプロジェクト] オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう。	
6 学習課題について考える。(10分) ワークシートに動画内容のイメージを記入する。 S: 学食がおいしいから、紹介したいな。	◎生徒がイメージしやすいように自作の動画(活動について)を提示する。 ◎聞き手が関心をもつ内容であり、場面や状況が考えられるようにワークシートを準備し、イメージを図式化できるようにする。(A見通し) ◆評価項目 ○本文内容を理解している。 <ワークシート(知)> ○身近な話題について、聞き手にとって関心のある内容を発信するという課題を捉え、自分の考えをもとうとしている。 <観察(態)>

Ⅲ 第2時の学習

1 ねらい オープンスクールに来校する中学生や保護者に研究協力校の魅力を伝えるため、聞き手に関心をもってもらえるような構成を考案することができる。

2 展開 (45分・55分)

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 本文を読むことで得た知識や情報を基にリテリングを行う。(5分・5分) S: この内容で相手に伝わったかな。	◎本文の内容を再話することにより、主題と課題設定を再確認できるようにする。(A見通し)
2 発表準備をする。(25分・25分) S: 発表する内容は決めたから、情報収集にいく。	◎限られた時間の中で、聞き手に関心をもってもらえる発表ができるよう自分なりの工夫ができるようにする。(A行動)
3 ペアで発表練習をする。(10分・15分) S: 思っていたより、短い発表になってしまう。	◎限られた時間の中で、聞き手に関心をもってもらえる発表ができるよう修正・検討ができるようにする。(A行動)
4 本時を振り返る。(5分・10分) S: 次回は動画撮影ができるように今日、アドバイスしてもらった点は変更しよう。	○本時の活動で振り返ったことを次回の活動につなげられるよう声掛けをする。 ◎今回の活動でよかった点と改善すべき点を明確にすることで、次回の活動につなげられるようにする。(R振り返り) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◆評価項目 ペアでの発表練習を通して、聞き手にとって関心がある内容や伝え方を検討している。 <動画(知・思)> </div>

Ⅳ 第3時の学習

1 ねらい オープンスクールに来校する中学生や保護者に研究協力校の魅力を伝えるために、動画を作成することができる。

2 展開 (45分)

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> [単元のプロジェクト] オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう。 </div>	
1 動画撮影の確認をする。(5分) S: 撮影時間が30分くらいあるから、最初に修正と練習をしてから、動画を撮ろう。	○聞き手が関心をもつ内容であり、場面や状況、声の大きさを確認し、課題に即した動画撮影ができるようにする。 ◎生徒が授業時間内で撮影が終わるように見通しをもてるようにする。(A見通し)
2 発表練習と動画撮影を行う。(40分) S: 前回具体物がしっかり見えるようにと言われたので、そこを意識しよう。 S: 紹介したい場所に行って撮影しよう。 S: 紹介したい活動を実際に活動しながら撮影し	○聞き手に関心をもってもらえるように、支援が必要な生徒に対しては場面を設定して、撮影するよう助言する。 ◎限られた時間の中で、ペアやグループの相手と工夫しながら、聞き手に関心をもってもら

<p>よう。</p>	<p>える内容と活動の動画撮影になるよう互いにアドバイスができるようにする。(A行動)</p> <p>◆評価項目</p> <p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、「オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう」というプロジェクトについての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。</p> <p style="text-align: right;"><動画(知・思)></p>
------------	---

V 第4時の学習

1 ねらい オープンスクールに来校する中学生や保護者に研究協力校の魅力を伝えるための動画を作成し、互いに鑑賞し、よさを認め、アドバイスをすることができる。

2 展開 (45分)

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>[単元のプロジェクト]</p> <p>オープンスクールに来校する中学生と保護者に、研究協力校の魅力を伝えるために動画を作成しよう。</p>	
<p>1 撮影した動画を自分で確認し、振り返る。(5分)</p> <p>S: 魅力を英語で伝えることができたけど、他にどんな工夫ができたのかな。</p>	<p>◎自分が動画を撮る際に工夫した点が反映されているかを意識して見るように伝える。(R振り返り)</p>
<p>2 ペアで動画を鑑賞し合う。(30分)</p> <p>S: 紹介したい場所に行って撮影しよう。</p> <p>S: 紹介したい活動を実際に活動しながら撮影しよう。</p>	<p>○それぞれの鑑賞し合う時間が区切り、できるだけ多くの動画を鑑賞し合えるようにする。</p> <p>◎他の人の動画を見る際に、自分の気になったところを意識して見るように伝える。(A見直し)</p> <p>◎工夫した点を伝え合い、それぞれの動画を鑑賞し、よかった点やアドバイスができるようにする。(A行動)</p>
<p>3 本時と単元を振り返る。(10分)</p> <p>S: 動画を撮影してみると、もう少し聞き手が聞きやすいようにゆっくり話した方がよかったな。</p> <p>S: 実際に活動をしているところを見せながら英語で紹介したことで、研究協力校の魅力が伝わるといいな。</p>	<p>○今までの活動と本時の動画撮影の振り返りを行う際に、振り返ったことを次回の活動につなげられるよう声掛けをする。</p> <p>◎今回の活動でよかった点と改善すべき点を明確にさせ、次回の活動につなげられるようにする。(R振り返り)</p> <p>◆評価項目</p> <p>動画を互いに鑑賞し合い、よさや次回につなげるアドバイスをしようとしている。</p> <p style="text-align: right;"><観察・ワークシート(態)></p>

<p>「五常の教え」</p> <p>仁：思いやりの心</p> <p>義：不正を憎む心</p> <p>礼：他人を敬う心</p> <p>智：善悪を判断する心</p> <p>信：誠実な心</p>
--